FRONT Page エッセイ

トニー・ラズロ
Tony László

翻訳者を信じ、翻訳を信じない

© 小栗左多里＆トニー・ラズロ／メディアファクトリー『ダーリンの頭の中　英語と語学』

ちょっと前、グアムで奇妙な事件が起きた。地元の記事によれば、あるレストランが英語と日本語の、内容が異なる二つのメニューを使って営業していた。違っていたのは献立ではなく、値段のほうだ。日本語メニューのほうが割高なのである。「なにか怪しい」と思ったある日本人客が両方のメニューを手に取り、それを比較しようとしたが、ウエイトレスが慌てて客の手を叩き、メニューを取り戻したという。

記事は、店の行為の違法性やグアム当局の対応について述べていくが、僕は日本人客がとった行動に注目した。

消費者としてしっかりしていることは立派だが、厳密にいえば、その人をそういう理由から褒めているのではない。（日本語版メニューという）翻訳文を信用しない」という姿勢を評価したい。

グアムの件の場合、両メニューが違っているのは、そもそもいろんな理由が考えられる。店が日本人客から高いお金をとりたいがために、意図的に日本語メニューの値段を高くしているかもしれない。しかし、単なる誤訳によって値段が違っているかもしれない。あるいは、店がメニューを作成した後に値下げを行ない、それが原文の英語メニューにしか反映されていないということもあり得る。ただ古くなったせいで、翻訳された文書の内容が原文と違ってきたというケースはときどき見る。

数年前にこのような「誤訳」と思われる事件が日本で起きた。賃貸物件を紹介している不動産会社が、英語のほうの更新を怠ったか、一部値段の異なる英語と日本語のカタログを発行していた。この場合もお客さんが原文と訳文を見比べたのがきっかけで問題が発覚した。

イタリア語の諺で「翻訳者は裏切り者」というのがある。どんな翻訳者でも、原著者の言葉を忠実に訳すことはできず、必ずその意を裏切ってしまう、という意味だ。世の中には酷い諺があるが、これはかなり上位に入る。不幸にも「翻訳者」（トラドゥットーレ）と「裏切り者」（トラディトーレ）という言葉の音が似ていたせいで、翻訳者はこう悪口されるようになってきた。翻訳業に従事する人は本当に気の毒。

英語圏でちょっと珍しい習慣がある。誰かがくしゃみをした後、回りの人が一種の挨拶でもって「gesundheit」と言う。これは「健康」を意味する（ドイツ語経由の外来語）。すると、くしゃみをした本人がこう言われたことに対して感謝を示す。もし、二回連続くしゃみが出たら、ちゃんと二回「gesundheit」と「Thank you」というやりとりになる。三回くしゃみした場合、これが三回行なわれる。一方、日本語では相手がちょっとくしゃみしただけで何も言わないのが普通。「大丈夫？」と尋ねる場合があるかもしれないが、必ず言うという習慣があるわけではない。

さて、この「gesundheit」を日本語にどう翻訳すればいいのか、という問題がある。よっぽどの激しいくしゃみでない限り、くしゃみした人の健康を本当に気にかけているわけではないので、「大丈夫⁉」は適切ではなさそう。「お大事に」は気持ち的に近いと思うが、日本語ではこういう使い方はしない。なかなか難しい問題だ。日本語から別の言語へという場合、食事の前の「いただきます」をどう訳するかという問題が似ている。「いただきます」は、それを言っている人の言い方にもよって、お祈りなのか、料理を作った人へお礼なのか、それとも単なる「さあ、食べましょう」という合図なのか、どうなっているか判断しかねる。それでも翻訳をしなくてはならないのが翻訳者の辛いところ。

人間はどこか完璧主義なところがあるからか、「正確な翻訳」を求めているように思う。翻訳者が上記のような問題にぶつかり「不正確」と捉えられる訳文を作ったことで、「翻訳者は裏切り者」のようなことを言われてしまうのはあまりにも残念。性質上、翻訳そのものには限界がある。一般的には、悪いのは翻訳者ではない。

「自動翻訳」がネットに登場して数年が経つ。原文をウェブサイトに貼付けると、それを訳してくれるというサービスだが、時にはユーモラスなくらい荒々しい訳文を打ち出している。「あんなの、使いもんにならん」と言う人がいるが、これは使い方を間違っているとしか言えない。ネットにあるような自動翻訳は「無料翻訳サービス」ではなく「翻訳支援サービス」として考えたほうがいい。

たとえば、次の文章。

「The practice of saying "gesundheit" after someone sneezes is not observed in Japan」（意味：日本では、人がくしゃみした後に「ゲズントハイト」を言うという習慣がない）。

この文章を自動翻訳サービスにかけたら、次のような答えを打ち出すことがある。

「誰かが日本で観察されないくしゃみした後に、『ゲズントハイト』を言う練習」。

翻訳文としてはこのまま使えるものではない。しかし、ある程度の「翻訳支援」にはなっている。これを見て、原文はおそらく「日本」と「くしゃみ」に関して何かを語っていると推測できるからだ。

ネット上の自動翻訳サービスは、これからも少しずつよくなってくる。しかし、「正確な翻訳を提供してくれる」ことを期待するなら、永遠に待つことになるだろう。

今のままでも、これらのサービスはすでに大きな貢献をしてくれているように思う。「正確な翻訳」でなく、原文についての良い「ヒント」を提供してくれることで、私たちの洞察力を向上させているはずだ。

そして、それよりもなお大切なこと――私たち「翻訳依頼者」を「翻訳者」に変えているということだ。これで、翻訳がどれだけ複雑でどれだけ不正確なものなのか、肌で感じられるようになる。

もう、「翻訳者は裏切り者」など、言ってはいられない。

（筆者＝ライター）

白水社創立90周年記念出版についてのお知らせがあります。3〜6面をご覧下さい。

愛書狂

▼「蟹工船」という名の料理店に行った。もちろん名前に惹かれて行ったのである。行ってみると、そこは入口に活蟹の水槽なども置かれたシックなたたずまいの高級蟹料理店だった▼そりゃまあ、「蟹工船」とて、もとはといえば一般名詞。料理店名になってもおかしくはない。いがしかし、ここから小林多喜二の名を連想しない人はいないはずだし、読んでいなくても『蟹工船』が悲惨な労働現場を描いたプロレタリア文学であるのは日本の常識▼だが、蟹工船、懐石コースには「札幌」「小樽」「函館」、炭火焼きコースには「くなしり」「こたん」なんていう名がついているものの、まったく悪びれたようすはなく（当たり前か）、帰り際に「小林多喜二と関係があるんですか？」と質問しても「よく聞かれますけど、関係はないんですよ」とニッコリ笑って返されただけだった▼「蟹工船」はしかし、料理店業界に進出しているだけではない。世の中には「蟹工船Tシャツ」を売る人たちもいるのである。こっちはしかも料理店より文学的で、「おい地獄さ行ぐんだで！」という書き出しはじめ「畜生、ガブガブ飲むつたら、ありやしない！死ぬ覚悟で働け！馬鹿野郎！」といった『蟹工船』から採ったコトバが印刷されているのである▼なるほどな。これからはやはりグルメとグッズだな。Tシャツがありなら安眠を誘う『草枕』の枕カバーや『蒲団』の布団カバーはどうか。鍋料理店「かちかち山」、レストラン「注文の多い料理店」は、などと考えてみたものの「蟹工船」以上のブラックユーモアは思いつかない。ついでに「おい地獄さ行ぐんだで！」と染め抜かれた暖簾でもかかっていたら最高だったんだけど。（洗）

仰天事件の真相に迫る評伝

「シェイクスピア贋作事件」◎ウィリアム・ヘンリー：アイアランドの数奇な人生◎

パトリシア・ピアス［著］

ISBN4-560-02612-2

十八世紀後半の英国で、文豪シェイクスピアの手紙や証書などの文書が多数発見され、当代の文人や学者、貴族や政治家が本物と信じ、大騒動となった事件が起きた。そればかりか、これまで誰も知らなかった草稿が出現し、有名女優によって舞台上演までされていたのだ！　間もなく、真のシェイクスピア学者マローンによって、すべて贋作であると証されるのだが……。

さて、その贋作者こそ本書の主人公、ウィリアム・ヘンリー・アイアランドという、弱冠十九歳の若者であった。

鈍重で成績もふるわないウィリアム・ヘンリーは、シェイクスピアに心酔する版画商の父から疎んじられていた。そこでなんとか見返してやろうと、シェイクスピアの署名のある証書や手形を偽造する。出所は大金持ちの「H氏」からもらったとしたところ、父はまんまと騙される。念のため、学識のある友人たちに鑑定を依頼するが、皆が本物だと請け合う。

父に認めてもらいたくて始めたウィリアム・ヘンリーの贋作は、とどまるところを知らず、シェイクスピアの恋文や草稿まで贋作する。驚喜した父は文書の出版を計画し、その予約のため、自宅でそれらを展覧し、多くの著名人を招く。するとお歴々はそれを本物と信じ、見事に騙されてしまう。舞台上演の話が進むなか、マローンが、贋作であることを完膚無きまでに暴く本を執筆していた……。

ウィリアム・ヘンリーの波瀾の生涯をたどり、贋作事件の真相に迫る、異色の歴史読み物。

◇高儀進訳　河合祥一郎解説　四六判　三〇四頁　定価二九四〇円（本体二八〇〇円）9月中旬発売

微妙で厄介な関係のナゾを解く

「だから母と娘はむずかしい」

キャロリーヌ・エリアシェフ、ナタリー・エニック［著］

ISBN4-560-04972-6

「母親か、女か。母親になろうとする女性ならだれもが意識する二つのモデルであるが、それぞれ次のような矛盾する願望に対応している。家系の鎖の環のひとつか、固有の人格を備えた個人か。夫に依存するか、自立するか。尊敬の対象となるか、欲望の対象となるか（本文冒頭より）」――これは、女性の多くが経験する葛藤ではないだろうか。もちろん、母親は〈母〉か〈女〉かどちらか一方だけを選ぶわけではないが、そのどちらかに偏ってしまいがちだ。

精神分析と社会学を専門とする本書の二人の女性著者は、この〈母〉と〈女〉を軸に母親のタイプを分類し、それぞれが娘とどのような関係を結んでいくのかを、童話や小説、映画など百作以上のフィクションを通して鮮やかに分析してみせる。『白雪姫』『ボヴァリー夫人』『ピアノレッスン』など、物語のなかの母娘の心理を追っていくうち に、読者は両者の間の微妙な心理メカニズムを理解し、やがては自らのケースを相対化し、自分でも不可解だった言動も驚くほど納得できるようになるはずである。

母と娘のあり方にまったく新しい展望を切り拓き、また母と娘が共に幸福に生きるためのヒントを随所に散りばめた本書は、フランスで発表されるや雑誌で特集が組まれ、テレビ番組も制作される（DVD化もされた）など反響を呼び、二十万部を超えるベストセラーとなった。

訳者による著者インタビューをまとめた巻末の特別論考「日本の母と娘」では、小津安二郎の『秋日和』と太宰治の『斜陽』における母と娘の関係が分析されている。◇夏目幸子訳　四六判　三五四頁　定価二七三〇円（本体二六〇〇円）

大先達に学ぶ長寿の知恵

「金子兜太養生訓」

黒田杏子［著］

ISBN4-560-02782-X

俳壇の巨匠金子兜太は、悠々と、堂々と、そしてたっぷりと生きている。米寿を迎えようとするこんにち、句作への探究心は衰えるどころかますます盛んで、その情熱は絶えることなく燃え続けている。

本書は、師系も流派も異なるものの、金子兜太を敬愛して止まない著者が、その生き方の秘訣を丹念にさぐった現代版「養生訓」である。

詳しくは本書をひもといていただくとして、金子兜太が自らに課している十二か条に及ぶユーモアあふれる教訓を、読者は十分に楽しむことができる。

大切なことは、何よりも長寿への意思をもち、そのための自分の人生は自分で設計するのだという、ごくあたりまえのことを実行することだ、と金子兜太は言う。ただ成り行きに任せているだけでは、長生きはむずかしい。長寿作戦をたて、戦略を練ることではじめて「百歳への道」が拓かれてくるのだ。

たとえば金子兜太は毎日必ず決まった時間にトイレで用を済ませ、そこで目薬を差す。両方を忘れずに同時に済ますことが大事な健康法である、と大真面目に語っている。ついでにいえば、金子兜太はかなりのスカトロジストでもある。

一人の「荒凡夫」として、「定住漂白」をつづける金子兜太のはじめてといっていい心情が随所に吐露され、ファンにとってはもちろん、多くの読者にとってもたまらない一冊となるであろう。同じく金子兜太を敬愛する小沢昭一、永六輔が本書に推薦文を寄せている。

◇四六判　二四五頁　定価一八九〇円（本体一八〇〇円）9月下旬発売

ユダヤ人はドイツ人と和解したのか

［シリーズ・ドイツ現代史Ⅲ］「戦後ドイツのユダヤ人」

武井彩佳［著］

ISBN4-560-02608-4

ナチのホロコーストを辛くも生き延びたユダヤ人はその後どのような運命を辿ったのであろうか。

彼らの大半は米国やパレスチナに移住したが、ドイツにとどまる道を選んだ者もいた。

また、東欧諸国からドイツへ移住する者もいた。なぜ彼らは「犯罪者の国」を選択したのか。

西ドイツのユダヤ人は、この国の民主主義再建に協力することを求められ、彼らの存在自体がドイツとユダヤ人の和解のシンボルとなった。一方、東ドイツにもユダヤ人は残ったが、諸国との関係やドイツの反ユダヤ主義にも触れながら、彼らがドイツの「過去の克服」に果たした役割を多面的に描いていく。

◇四六判　一九二頁　定価一九九五円（本体一九〇〇円）9月下旬発売

名著、待望の邦訳なる

「ゴシック・リヴァイヴァル」

ケネス・クラーク［著］

ISBN4-560-02704-8

「ゴシック・リヴァイヴァル」とはゴシック様式の復活を意味し、十九世紀以前からイギリスにおいて独自の伝統を形成していたが、十九世紀に入るとより厳密なゴシック建築の復興をめざす運動として展開することになる。

この運動は十九世紀の建築界の潮流において、またヴィクトリア朝時代の美的趣味の傾向に圧倒的な影響力を示し、当時のイギリス社会を席巻し、時代の美的趣味を十二分に満足させる一大運動となっていった。

その影響は、今日のイギリス社会においてなお顕著に見出せる。教会はもとより、裁判所などの公共建築、集合住宅にいたるまで、市民生活に関わる多彩な建築物がゴシック・リヴァイヴァル様式によって建築されている。

本書は美術史家のケネス・クラークが著した優れたゴシック・リヴァイヴァル研究であり、ホレス・ウォルポールの自邸ストロウベリ・ヒルからゴシック・リヴァイヴァルの傑作として名高い国会議事堂まで、多彩な建築事例を取り上げながら、この運動を大局的に扱った名著である。

またラスキンに一章を割いていることからもわかるように、ケネス・クラークの論考は建築のみならず、美術、文学を含む一大芸術運動として展開したゴシック・リヴァイヴァルの諸相を的確に網羅しており、イギリスの芸術や文化全般を理解するうえでの必須の文献となっている。◇近藤存志訳　四六判　三五〇頁　定価三五七〇円（本体三四〇〇円）9月下旬発売

［シリーズ・ドイツ現代史（全4巻）・既刊］

Ⅰ「20世紀ドイツ史」　石田勇治［著］　ISBN4-560-02606-8　◇定価二一〇〇円（本体二〇〇〇円）

Ⅱ「ドイツを変えた68年運動」　井関正久［著］　ISBN4-560-02607-6　◇定価一九九五円（本体一九〇〇円）

【続刊】

Ⅳ「ドイツの歴史教育」　川喜田敦子［著］　11月発売予定

『出版ダイジェスト』と『白水社の本棚』について

『出版ダイジェスト』は、約100の専門書出版社によって運営される社団法人「出版梓会」が、会員社の最新書誌情報を読者にお届けする新聞です。

『出版ダイジェスト』には、会員社がさまざまな情報を持ち寄った「総合版」（年間12回）と、単独の出版社あるいは数社の合同で編集される「特集版」（年間30～35回）があります。本紙『白水社の本棚』は、「特集版」の一つです。

『白水社の本棚』はご希望の方に無料で提供しておりますが、年間購読料1575円をお支払いいただきますと「総合版」「特集版」のすべてが送られます。

すべての『出版ダイジェスト』をご希望の方は、お名前・ご住所・お電話番号を明記の上、購読料を切手か郵便振替用紙で下記にご送金下さい。

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町
3-28-13 ラフィネお茶の水805
社団法人　出版梓会
郵便振替 00190-3-95516
http://www.digest-pub.net/

なお上記をお申し込みの際は、本紙の重複送付を避けるため、お手数ですが同封の葉書等で『白水社の本棚』解約の旨をお名前・お客様コードと共に白水社にお知らせ下さい。

好評図書

白水社の本棚

◎表示価格には５％の消費税が含まれています。　101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24 ／振替 00190-5-33228 ／電話 03-3291-7811 ／ http://www.hakusuisha.co.jp

中村屋のボース

◎インド独立運動と近代日本のアジア主義

中島岳志　■2310円　ISBN4-560-02778-1

一九一五年に日本に亡命したインド独立の闘士の、アジア解放への希求と日本帝国主義との狭間で引き裂かれた懊悩の生涯。ナショナリズムの功罪とは何かを描く、渾身の力作。

澁澤龍彦との日々

澁澤龍子　■2100円　ISBN4-560-02777-3

夫と過ごした18年を、静かな思い出とともにふりかえる、はじめての書き下ろしエッセイ。日々の生活、交友、旅行、散歩、死別など、妻の視点ならではの異才の世界を明らかにする。

父荷風

永井永光　■2520円　ISBN4-560-02780-3

永井荷風の養子となった著者が、戦前・戦後、代々木・熱海・市川など、同じ屋根の下に暮らした文豪との生活を、貴重な写真の数々とともに初めて明かす待望の書き下ろし。

ピアニストが見たピアニスト

◎名演奏家の秘密とは

青柳いづみこ　■2100円　ISBN4-560-02692-9

アルゲリッチはなぜソロを弾かないのか？　リヒテルはなぜ暗譜で弾くのをやめたのか？　ミケランジェリは本当に氷のように冷たい巨匠なのか？　名ピアニストの心と技の謎に迫る！

心にしみる物語
「オリーブの海」
ケヴィン・ヘンクス［作］

ISBN4-560-02728-5

二〇〇四年度のニューベリー賞オナーを受賞したこのさわやかなヤングアダルト小説は、いきなりショッキングな書き出しで始まる。夏休みのある日、主人公の少女マーサ・ボイルのもとをひとりの女性が訪ね、自分の娘オリーブが書き残した日記の一ページを渡して去るのだ。オリーブはマーサの同級生。だが「オリーブ・パーストウは死んだ。モンロー・ストリートで自転車にのっているとき、車にひかれた。何週間か前のことだ。マーサが知っているのはそれだけだった」

クラスメイトといってもほとんど口もきいたことがないオリーブ。マーサに手渡された日記には彼女の三つの望みが書かれていた。まず、自分はいずれ小説家になりたいということ、そしていつか本物の海を見たいということ、そして最後に、マーサと友だちになりたいということ。

マーサは呆然としてしまう。もう二度と会えない人間からのメッセージ。なぜオリーブはわたしと友だちになりたいと思ったのだろう？　そしてそこには奇妙な偶然もあった。実はマーサ自身、小説を書きたいと思っていたし、翌日から海辺の祖母の家に家族で出かけることになっていたのだ。

物語はこのあと、海辺の町でのマーサのひと夏の体験を語っていく。そこには家族の問題や、祖母との心の交流や、小説書きの苦心や、ほろ苦い初恋の一幕がある。だが、そんな少女らしい夏の思い出を作りながら、マーサの頭からはオリーブのことが離れない。そして明日は家に帰るという日、マーサはあることを思いつく。◇代田亜香子訳　四六判　一七五頁　定価一六八〇円（本体一六〇〇円）

FEEL&CONNECT
「ウィリアム・フォーサイス、武道家・日野晃に出会う」
日野 晃、押切伸一［著］

ISBN4-560-03594-6

スポーツ選手の活躍・復調の影には、古武術あり！ということで甲野善紀・養老孟司・内田樹の各氏による身体論が注目を集めるなか、コンテンポラリーダンスの世界でも日本の武道は「革命」を起こしている。

ドイツのフランクフルトを拠点に先鋭的なダンス作品を発表しつづける、世界屈指の振付家ウィリアム・フォーサイス。彼が自らのダンスワークショップに初めて招いた外部の人間は、なんと、ダンスにはまったく縁のない日本人武道家だった！

二〇〇五年三月、フランクフルトのオペラ劇場で行なわれた武道家・日野晃のワークショップは、ジャンルや文化の相違を超え、きわめて刺激的で示唆に満ちたものとなった。世界中のアーティストや批評家たちから激賞されるフォーサイスをして「運命的な出会い」と、そしてダンサーたちをして「人生が変わった」とまで言わしめたものは、いったい何だったのか？

素顔のフォーサイスが挑む、7日間のワークショップ。彼はそこで、「即興の極意に触れ、胸骨の操作を学び、自宅に日野晃を招き、達人の技に感嘆し、『留守』を任せ、武道の技に燃え、最終日に閃く」。

フォーサイスが「ダンスのマスター」と称讃し、世界のトップダンサーたちが驚嘆した武道家・日野晃の技と思想（「触れる・感じる・つながる」ための身体メソッド）が、本書で語られる。フォーサイスとの対話も世界初収録された、フォーサイス作品の入門＆研究のためには欠かすことのできない一冊だ。貴重な写真も豊富に収録されている。巻末付録：「身体を存在させるためのトレーニング。

◇四六判　二五四頁　定価一八九〇円（本体一八〇〇円）

本音で語る「写真論・写真術」
「写真ノ話」
荒木経惟［著］

ISBN4-560-02703-X

いまやまさしく写真家人生の「アクメ」を極めている、天才アラーキーこと荒木経惟。彼が自らの写真を赤裸々に〝説明〟してゆく本書は、ダジャレ口調を装いながらも、アラーキーが本音で語る「写真論・写真術」である。

「これ、アタシの小さいころにちょっと重なって見えるのよ。『さっちん』っていう子なんだけど、これが一九六三年。んー、これよりも前も写真はずっと写してんだけど、やっぱりアタシが最初に写真に関わったと言えるのは、やっぱりこのときだったのかな。これは大学生のころに撮ってたんだけどね。家の近所に戦前からのこういう汚いアパートがあって、そこに行ってこういう少年と出会ったわけです。［中略］で、実言うとね、イタリアン・リアリズムに影響されたとか言ってけど、『自転車泥棒』しか観たことないんだよね。ハハハハハ。はじめてバラしちゃったけどね」（本書より）。

二〇〇五年の秋にロンドンで開催される個展に向け、40年にわたる制作秘話を一挙公開！デビューから現在までの自作を解説し、日本の写真史のなかに〝正しく〟位置づけていく。

私写真、中年女、少女、人妻、エロトス、日記、日本人ノ顔、ドキュメンタリー……荒木経惟をめぐるさまざまなキーワードについて自らの言葉で語りながらも、女性を美人に撮る方法やアングルとフレーミングの勉強の仕方など、具体的なテクニックもしっかり伝授してくれる。これぞ、写真家志望者の教科書だ。写真図版多数収録。

◇四六判　二四〇頁　定価一八九〇円（本体一八〇〇円）
9月下旬発売

ニューベリー賞ってどんな賞？

ニューベリー賞は、アメリカ図書館協会が選定し、前年にアメリカで出版された児童書のうち最も優れた作品を著した作家に贈られる、権威ある賞です。
白水社では『オリーブの海』の他に、以下のニューベリー賞受賞作品を刊行しています。

きらきら【2005年度ニューベリー賞受賞】
シンシア・カドハタ［作］代田亜香子［訳］　ISBN4-560-04795-2
アメリカ南部の工場で働く日系二世の両親と美しく聡明な姉娘リン、ひょうきんな妹ケイト。一家の深い家族愛と彼らにふりかかる苦難を透明な文体で描いた日系女性作家の感動的な小説。
定価 1575円（本体 1500円）

みんなワッフルにのせて【2002年度ニューベリー賞オナー受賞】
ポリー・ホーヴァート［作］代田亜香子［訳］　ISBN4-560-04761-8
港町に住む少女プリムローズの両親が嵐の日に海で行方不明になり、町の人は死んだと決め込む。それを信じない少女が巻き起こす珍事件を素敵におかしく描いたヤングアダルト小説。
定価 1575円（本体 1500円）

屋根にのぼって【2000年度ニューベリー賞オナー受賞】
オードリー・コルンビス［作］代田亜香子［訳］　ISBN4-560-04723-5
少女ウィラ・ジョーと小さな妹がパティおばさんの家の屋根にのぼったまま下りてこなくなったわけは？　多感な少女の心の揺れをさわやかに描く感動的な物語。
定価 1680円（本体 1600円）

白水Uブックス
『黒い時計の旅』
スティーヴ・エリクソン［作］

ISBN4-560-07150-0

U150

時間と空間の境界をやすやすと乗り越える瞠目すべき幻視力と読者の感覚を強烈に刺激する細部のリアリティ。スティーヴ・エリクソンの小説世界は比肩する者のない根源的な虚構の膂力をもってアメリカ文学界に屹立している。処女作『彷徨う日々』から『Xのアーチ』に至る邦訳傑作群はいずれも見事な想像力の産物だが、なかでエリクソン・ワールドの扉を開く鍵となる一作を選ぶとしたら、この『黒い時計の旅』が最適だろう。まずは、語りとして抜群に面白いからだ。ヒトラーの私設ポルノグラファーという意表をつく人物設定を軸に「もうひとつの二十世紀」を構築するその手際は鮮やかというしかない。◇柴田元幸訳　新書判　四〇五頁　定価一二六〇円（本体一二〇〇円）

「ベケットと「いじめ」」
別役実［著］

ISBN4-560-02083-3

U1083

13歳の中学生たちによって教室で演じられた「お葬式ごっこ」の、本当の主役は？……「いじめ」のメカニズムを考察してゆくために、サミュエル・ベケットの不条理劇（『行ったり来たり』『息』『私じゃない』）を読む。

あとがきに曰く「一九八〇年代、演劇を方法論的に確かめようとしていた時代に私の考えていたことを、何とか言葉にしようとした、いわば悪戦苦闘の痕跡である」本書は、日本における不条理劇の第一人者が「対人関係」という切り口から演劇のポストモダンについて語った、画期的なガイドブック。コミュニケーション理論の基本図書としても、きわめて有益である。

◇宮沢章夫解説　新書判　二四二頁　定価九九八円（本体九五〇円）

フランス文学でしか味わえない人生の奥深さ

◎表示価格には５％の消費税が含まれています。

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24 ／振替 00190-5-33228 ／電話 03-3291-7811 ／http://www.hakusuisha.co.jp

しずかに流れるみどりの川
ユベール・マンガレリ　田久保麻理訳
■1680円　ISBN4-560-02726-9

「ふしぎな草」が広がる原っぱの真ん中の小さな町。電気も止められてしまうような貧しさのなかで寄り添う父と子は、裏庭に自生する〈つるばら〉でひと稼ぎしようと夢みるが……。

おわりの雪
ユベール・マンガレリ　田久保麻理訳
■1680円　ISBN4-560-04798-7

雪深いフランスの町で病床の父と暮らす少年は、ある日、一羽のトビに魅了され、それを手に入れるためにつらい任務を引き受ける。メディシス賞受賞作家による、胸に迫る中編小説。

お知らせ

白水社ホームページに「ユベール・マンガレリ特集」
本年度NO.1海外小説の声も高い『おわりの雪』、邦訳第二弾『しずかに流れるみどりの川』の作家の魅力を語ります。
［目次］
▼**野崎歓**：静かな沼――『Quatre Soldats（四人の兵士）』の魅力
▼**いしいしんじ**：遠い場所で起こるささやかな奇跡
▼**高野文子**：『おわりの雪』と私（4コママンガ）
▼訳者・**田久保麻理**さんに聞く
http://www.hakusuisha.co.jp

五感で味わうフランス文学
野崎歓
■2100円　ISBN4-560-02724-2

古今の小説を舌や耳、さらにはエロスや死の感覚で味読する卓抜な読書案内。快調なジャズ小説『ある夜、クラブで』、静かな死の匂いを漂わせた『おわりの雪』など多くの傑作を紹介。

フランス小説の扉
野崎歓
■2310円　ISBN4-560-04718-9

19世紀の極めつきの名作から現代の知られざる逸品まで、小説の読みどころ、味わい方を陶然と語る。トゥーサンやジャン・ルノワールの名翻訳家による「フランス小説美味礼賛」。

文庫クセジュ

Q890「チェチェン」

パトリック・ブリュノー、ヴィアチェスラフ・アヴュツキー［著］
ISBN4-560-50890-9

まだ記憶に新しい昨年秋の北オセチア学校占拠・人質テロ事件以降、ロシアによるチェチェン武装勢力の掃討が激化している。今年三月、チェチェン独立派指導者マスハドフ司令官が戦闘で死亡し、穏健派の指導者を失ったチェチェンでは、緊張が高まり、和平への道は遠いのである。

本書は、カスピ海と黒海に挟まれグルジアの北方に位置する小国チェチェンが、ロシアに侵攻されてきた歴史を辿ってゆく。石油産業や宗教についても解説し、紛争の本質に迫る。著者と専門家による最近までの動向を補った解説も収録。

◇萩谷良訳　新書判　一八二頁　定価九九九円（本体九五一円）

Q891「科学哲学」

ドミニック・ルクール［著］
ISBN4-560-50891-7

ウィーン学団やバシュラールを経てクワインやハッキングへと至る科学哲学は、サイエンスの目的と方法をめぐる探求である。

本書は、その潮流を十九世紀の成立時期から解説し、科学哲学という学問分野についての見取り図を与えようとするものである。フランス科学哲学の伝統、エピステモロジーに見られる歴史的手法と、英米の論理学を駆使する分析的手法という二つの伝統が合流する将来についても展望してゆく。科学のみならず、技術を介して科学に巻き込まれる人間社会からも要請される新しい哲学の、わかりやすい入門書。

◇沢崎壮宏、竹中利彦、三宅岳史訳　新書判　一八四頁　定価九九九円（本体九五一円）

Q892「新約聖書入門」

レジス・ビュルネ［著］
ISBN4-560-50892-5

神との新しい契約を伝える、聖なる書物――新約聖書は、初期キリスト教の歩みとともに徐々に成立していった。すなわち、紀元三〇年頃から使徒たちの宣教が始まり、最初の文書がパウロによって書かれ、その後、使徒たちの死や迫害の時代のなかで必要とされた文書が作成されていったのである。

本書は、この歴史的展開に沿い、諸文書の内容や背景、正典化の過程などをわかりやすく解説する。神との契約とは何か、福音書とは何か、黙示録を読むためのヒントなど……基礎知識満載。芸術作品の理解に役立つ、聖書中のエピソード・出来事のガイドや年表も収録。

◇加藤隆訳　新書判　一九二頁　定価九九九円（本体九五一円）9月下旬発売

語学書新刊コーナー

「読むイタリア語」

白崎容子、入江たまよ［編著］
ISBN4-560-00388-2

イタリアの新聞 La Repubblica、雑誌 Il Venerdì、La Cucina Italiana、さらには広告、観光パンフレット、電気器具の取り扱い説明書などから生きたテキストを選び、題材にした読解問題集です。工夫をこらした多彩な問題形式によって読むために必要なヒントを与え、丁寧に解答への道をたどることで実践的な読解力を養います。読みこなす「コツ」へと導く案内役になることでしょう。イタリア語が好きな本格派のあなたに、必携の一冊。

◇A５判　141頁　定価 1995 円（本体 1900 円）

「これが言いたかった！ 中国語の生活会話（CD付）」

花澤聖子［著］
ISBN4-560-00358-0

ビジネスや留学の会話だけではなく、なにげない日常会話にも実はコツがあるんです。ショッピング、病院、宴会……中国社会では、日本の常識がそのまま通用するとは限りません。そんな場面で戸惑わないための、ありそうで無かった生活感あふれる濃い会話集です。「現地でこれが言えなくて困った」という体験者の声を元に、日本人のビジネスマン・大学生・主婦と中国人との対話を40ケース収録。関連表現にも覚えやすく実用的なフレーズを満載し、すべて付属 CD に収めました。社会事情や文化の違いも多数紹介。転ばぬ先のこの１冊、中国へ行くなら必携！

◇２色刷　A５判　143頁　定価 2100 円（本体 2000 円）９月下旬発売

「〈CDエクスプレス〉デンマーク語（CD付）」

横山民司［著］
ISBN4-560-06761-9

ご存知のベストセラー入門シリーズ《エクスプレス》に CD が付きました！ すぐに役立つ会話例、ていねいな文法解説と豊富な練習問題により、「読み、書き、話す」ための基礎が速く着実にマスターできます。会話テキストは、ゆっくり読みとナチュラルスピードの２回読み。CD を活用した練習問題も豊富です。

デンマーク語はノルウェー語・スウェーデン語と並んで北欧を代表する言語。３者は酷似しているので、デンマーク語を覚えれば３倍も役立ちます。

◇A５判　150頁　定価2520円（本体2400円）

「〈CDエクスプレス〉ハンガリー語（CD付）」

早稲田みか［著］
ISBN4-560-06762-7

東方の遊牧民に起源を持つハンガリー語は、ヨーロッパでは珍しく人名を日本語と同じように姓・名の順で書く言語です。本書は中欧のこのユニークな言語のおおよその仕組みを、簡単な会話を中心に文法項目をおさえながら学んでいきます。全 20 課構成で、２課ごとに練習問題が設けられているので理解度を確認しながら着実に進めることでしょう。

◇A５判　134頁　定価 2625 円（本体 2500 円）９月下旬発売

●お詫びと訂正●アラン著『幸福論』に以下のような誤りがありました。小社の不手際により長年にわたり見過ごしておりましたことをお詫びするとともに訂正いたします。

（誤）気にしないでいられる人たち→（正）気にしないでいられぬ人たち

アラン『幸福論』（イデー選書）77 頁６行目／アラン著作集第２巻「幸福論」77 頁６行目

編集メモ

印刷博物館で今年の四月から七月にかけて「プランタン＝モレトゥス博物館展」が開かれた。活版印刷の発明といえばグーテンベルクが有名だが、その後欧州の各地で印刷文化が花開いていく。フランドルでは、プランタンの一族が成功する。今回はその時代の貴重な書籍が多数展示され興味深かった。テキストの正確さもさることながら、レイアウトにもいろいろ工夫をこらしたことが見てとれる。ヘブライ語、ギリシア語、ラテン語など多言語を見開きに配置、対照した聖書の巧緻な構成などには目を瞠るものがある。そんな展示の中で、ある小冊子に目がとまった。何と七カ国語対照会話帳である。「物の売り買い」や「借金の依頼」など具体的な場面が設定された実用書で、現代にもそのまま使えそうではないか。四百年以上前に作られた「語学書」を前に、しばし呆然と立ちつくしてしまった。（ほ）

営業部だより

この春から小社の各種案内などに登場している、シルクハットに眼鏡をかけ、豊かなひげを蓄えた老人にお気づきでしょうか。書店を回っていると「この人誰ですか」などと聞かれることがあります▼実は筆者もこの翁について何も知りません。社内には知っている人もいるのではないかと思われますが、広く告知されたことはありません▼眼鏡が90の形になっているので、小社の九十周年を祝ぐために、どこからともなく現われたらしいのです。たぶん年齢は九十歳。小社創立の年に生まれたのでしょう▼一説によると創業者・福岡易之助の遠縁にあたる者だとか。家族はいるのか、本名は何というのか、すべて謎だらけです。社内では「九十じいさん」と呼ばれていますが、詳しいことがわかり次第、順次ご報告したいと思います。ひょっとして帽子からハトを出してくれるのでしょうか。

【お願い】

▼住所表記が変更になりましたら、お名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。

本の十字路

小春日和のころ、山形は米沢盆地の青空を白く細い糸がしずかに流れてくる。そして空のなかに吸い込まれ、やがて消えてしまう。こうした現象が見られるようになると、その年の雪が近いことから、人びとはこの糸を「雪迎え」と呼び、冬支度を急ぐならわしであった……。この神秘的な現象に魅せられた著者は十余年におよぶ観察のすえ、その正体がクモの営みであることをつきとめた。だが、この本（錦三郎著『飛行蜘蛛』）の真価は執念ともいえる科学的観察にだけあるのではない。アリストテレスにはじまる外国での研究の跡を探り、古今の文学作品にあらわれる雪迎えもていねいに紹介しているところがすばらしい（だから海外文学の棚にあった）。解説にあるように「科学者の魂と文学者の魂とが溶けあった希有な書」といえようか。口絵写真を最新のカラー写真に差し替えて、先ごろ笠間書院から復刻された。

黒田龍之助の語学書書評

『〈CDエクスプレス〉現代ヘブライ語』

最近の語学書はお手軽なものばかりで物足りない、とお嘆きのあなたへ。CDエクスプレスシリーズにすごい仲間が加わりました。

そもそも現代ヘブライ語の入門書なんて、それほど頻繁に出版されるものではない。著者はこのことをよくよく理解し、一六〇ページほどの中に、現代ヘブライ語のエッセンスを目一杯詰め込んだ。

現代ヘブライ語はアラビア語とともにセム語族に属しており、従ってヨーロッパの言語とはだいぶ違った構造をもつ。その文法用語も「潜入パタハ」とか「動詞パアル現在形」とか「連結語（スミフート）」など、秘術の暗号のように妖しく魅力的なことばが並ぶ。これでワクワクしないようでは本当の語学好きではない。

テキストはすべて会話形式である。高校生の男の子ダヴィドが主人公だが、中には二児の父親であるロシア系移民アレクスなども登場するので、そういう人はいったいどんな会話をするのだろうかと先が気になる。六課のテキストの中に、このアレクスお父さんの「何もかもうまくいっているよ……私には仕事があるし、子供たちは学校へ行っているし。私はバスの運転手の仕事が気に入っている」というセリフを見つけた。イスラエルに来てから生活がよくなったのだろう。なぜかホッとした。

このようにして登場人物たちの会話に耳を傾け続ければ、最後には「連立政権をめぐる政党代表間の会談に進展」などという難しそうな表現まで行きつく。ここまで理解できるようになれば、初級はめでたく卒業だろう。

最近の語学書と来たら条件文はない、関係詞はない、挨拶表現や買い物会話ばかりだとご不満の方には、是非お勧めしたい。

ただしヘブライ語はヘブライ文字で書き表す。この本ではテキストと新出単語ではそれぞれ違う活字体が使われ、さらに練習問題の解答のうち、ヘブライ語作文だけは筆記体で書かれている。文字に不慣れな初心者にはちょっと負担かもしれない。そこでまずは文字にゆっくり慣れてから……という方は、山森みか『ヘブライ語のかたち』から入っていったらいいだろう。

（筆者＝明治大学理工学部助教授）

『〈CDエクスプレス〉現代ヘブライ語』

旧約聖書の言語から、人為的な努力によって日常語として復活するという言語史上極めて稀な過程を経て成立した言葉です。人口約 600 万人のイスラエルの国語として使われています。

山田恵子 著
■A５判／157 頁
定価 3045 円（本体 2900 円）
ＣＤ付
ISBN4-560-06760-0